

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 1	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Primary and secondary chronic cluster headache: two separate entities? 原発性および二次性の群発頭痛：2つの異なる疾患か？	
執筆者	
P Torelli, D Cologno, C Cademartiri, GC Manzoni	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cephalalgia, 2000, 20, 826-829	
キーワード	
頭痛、群発頭痛、間歇的に発生する慢性群発頭痛、発症から絶え間ない慢性群発頭痛、臨床特性	
要 旨	
<p>(目的) 国際頭痛学会では慢性群発頭痛を発症から絶え間ない慢性群発頭痛 (CCHU) と間歇的に発生する慢性群発頭痛 (CCHE) の2つの病型に分類している。この研究の目的は、この2つの慢性群発頭痛の病型において類似性や相違点を指摘し、2つが臨床的に独立しているものとして扱ってよいのかどうか検討することである。</p> <p>(方法) 1975年から1999年までの間、パルマ頭痛センターを受診した31名のCCHE患者(男性22名、女性9名)および38名のCCHU患者(男性29名、女性9名)にインタビューを行った。パルマ頭痛センターを最初に受診した時に、群発頭痛発症年齢、発症からの期間、頭痛箇所、発作の頻度と間隔、国際頭痛学会分類による関連する症候の有無を質問した。また頭部外傷の既往歴や、14歳以上の患者には喫煙状況、アルコール摂取状況、コーヒーの飲用状況を確認した。</p> <p>(結果) 臨床症状からすると、CCHE患者は、早期の慢性頭痛発症がみられる点と発作が120分から180分の間隔で頻回に生じるという点でCCHU患者と統計的に相違点が見られた。またCCHU患者ではCCHE患者に比べ頭部外傷の既往を持つ者が少なかった。生活習慣の観点からみると、CCHU患者では飲酒習慣を持つ人が76.3%であり、CCHE患者では64.5%であった。また飲酒量に関しては1日アルコール50-100gを飲む人がCCHU患者では27.6%であったのに対し、CCHE患者では15.0%であった。コーヒーでもアルコールと同様の結果がみられ、CCHU患者では多量飲酒者とコーヒー多飲者が占めていることが分かった。CCHE患者では1日20本以上の喫煙者が多くみられた。</p> <p>(結論) このような特性に基づいて、慢性群発頭痛のCCHUとCCHEは2つの別個なものとして扱われるべきである。また患者の生活習慣や頭部外傷の相違はこの仮説を支持しているものと考えられる。確固たる証拠とするためには今後もっと対象を増やしていかなければならない。</p>	